

■9月会山行荒沢岳集中■ 岩魚、雪溪、ウド。さて、今は何月？

越後荒沢岳 中ノ岐川 灰ノ又沢右俣

辻

【日時】 2006年9月2日(土)～9月3日(日)

【メンバー】L鈴木、大田原、高橋、山口、辻

9/2 晴れ

清々しい秋晴れの中、1時間弱の林道歩きで灰の又沢出合に着く。灰の又沢左俣パーティや裏荒沢パーティとも一緒であり、大盛況である。二番目に出発するが、5m滝の巻きがドロ付きでいやらしく、苦勞させられる。しかし、その後は快適に登れる小滝が連続し、抜きつ抜かれつしながら進んでいく。また、今日は行動時間に余裕があるので、釜が現れるたびに竿をたらす。大田原さんが1分と立たないうちに25cm位の大物を釣り上げるが、残念ながら取り逃す。しかし、高橋さんと山口さん



が一匹ずつ釣り上げ、今夜のつまみを無事確保した。



ところで、トップを勤めている大田原さんは本当に頼もしい。ちょっと難しいかなと思われるところでもスイスイと登ってしまう。後ろを歩いていても、気を抜くと(時には気を入れていても)直ぐに引き離されてしまう。また、沢を初めて2, 3年の人をここまで育てられる会の力量に改めて感心させられた。

二股手前の11m滝は佐貫パーティにザイルを残してもらい楽させてもらう。二股まで行くがいいテン場がなかったので、10分程戻った左岸に幕営する。焚き火を囲みながら、岩魚と季節外れのウドを焼き、大田原

さんの成長ぶりを称える話などで大いに盛り上がった。

9/3 曇り時々晴れ

右俣は快適に登れる小滝が続く。しばらくすると、上流からガスが漂ってきた。雪溪

の存在を予感させられる。案の定、奥の二股に長さ50m以上に渡って雪渓がびっしりと残っていた。南面の沢で9月にこれだけの雪渓が残るのかと驚きである。雪渓の上を慎重に歩いて対岸に渡る。



雪渓を超えた後も小滝が続く。稜線が見え始めた頃から、草付きの登攀になる。斜度はあるがそれ程悪くなく、スパイクなしでも十分登れる。交信によると我々以外は頂上に集合している様である。ちょうど10時頃に稜線に出る。佐貫さんと野村さんが、ご親切にもザック持ちの為に出迎えてくれるが、私は意地があっ

たので断ってしまった。

頂上は、トマのメンバーで正に足の踏み場もない状態。でも、方々のルートから登って、決められた時間に頂上で集合できるとは本当にいいものだなと思う。また、自分にとっては、頂上らしい頂上を踏むのは10年ぶり位だったのでもっとノンビリしたかったのだが、下りも長いので早々に後にする。



今朝方、ちょっとした弾みで膝を痛めてしまったのだが、足を深く曲げると激痛が走



る。鎖場やはしごが連続するので辛かったが、高橋さんからテーピング処置を施してもらい、かなり楽になれた。どうやら、運動不足の状態で急に運動すると出る症状らしい。早く着かないかなという気持ちのみでひたすら下ること3時間強、ようやく銀山平に到着。

私にとって、泊まりの会山行は今回が初めてであったが、十分に満足することが出来た。しかしながら、会員の方々の沢に対するモチベーションの高さにはつくづく感心させられる。私は、技術や体力の面のみならず、やる気の面でもトマのレベルに遠く及ばない様であるが、これから少しずつでも近づいていければと思っている(山へのモチベ

ーションを急に上げ過ぎたら、頭が筋肉痛を起こしてしまいそうなのでご了承を……)。

← 先行する佐貫パーティからのメッセージ

【行程】 9/2 雨池橋(7:55)～灰ノ又沢出合(8:45)～裏荒沢出合(11:15)～18mスラブ滝(14:00)～二又(14:45)～二又の手前(15:15、幕営)

9/3 二又の手前(5:50)～C1550(8:00)～荒沢岳頂上(10:10)

【地図】 「奥只見湖」 「平ヶ岳」

越後／荒沢岳／中ノ岐川／灰ノ又沢右俣

メンバー	鈴木孝昇、大田原由紀子、高橋敏夫、山口文嗣、辻俊昭	日時	2006年9月2日～3日
------	---------------------------	----	--------------

